1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102814		
法人名	社会福祉法人 みその		
事業所名	みそのホーム グループホーム		
所在地	秋田県秋田市寺内蛭根2丁目6番34号		
自己評価作成日	令和6年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/05/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0570102814-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和6年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在9名全員女性の御利用者様ということもあり、洗濯たたみや裁縫など積極的に取り組んで下さったり、皆さんでゆつくりとした雰囲気の中で毎日お互いを気遣い笑顔でその人らしい生活ができるように職員はサポートさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

整理整頓され、清潔感がたまたよう環境である。
利用者一人ひとりの現存能力を見極め、役割を持ちながら生活支援をしている。成功体験の積み重ねにより、笑顔で心おだやかに過ごしている様子がうかがわれる。
また、理念に沿い、利用者と一緒に生活をつくりあげる意識が共有されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:14)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な温かい雰囲気の中で安心してその人らしく生活出来る様に寄り添います」の理念に添ったサービスを心掛けております	玄関に理念を掲示。利用者及び家族の意向を確認しながら利用者に寄り添った支援をしていることを確認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校からの実習を受け入れ利用者様との交流を図っています	町内会に属している。10/27に法人事業所合同の「みそのマルシェ」を開催。200人ほどの参加者があった。継続的な開催を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	電話による相談や見学の受け入れ相談に乗っています	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催しており近隣の町内の方や地域包括支援センターの方にグループホームの事を知っていただきご意見をいただいています	2カ月に1度運営推進会議が開催されていることを確認した。行政機関や町内会役員、敷地内にある他の事業所が参加し意見交換が行われ各種行事やケアに活かされている。	運営推進会議に利用者及び利用者家族(当事者)が出席することにより、よりニーズに沿った議論が深まると思えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会で地域包括支援センターの方の参加を通し必要なアドバイスを受けています	情報収集は行政機関のホームページやメール、地域包括から入手している。不明な点については各部署へ電話やメールにて指示を受けサービスの向上につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間はアルソック警備の協力を受け施錠をしておりますが日中は職員の見守りにより開錠をしております。また、就寝時はベッド柵での対応よりも人感センサーなどを利用しております	事業所運営規程第18条に「拘束の対応」について記載している。 なお、身体拘束を必要とする利用者はいない。	事業所運営規程第18条に記載しているので、身体拘束に関するマニュアル等の整備や研修が必要かと思われるのでご検討ください。
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修会への参加はできておりません		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書についての説明をしております		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	通院の為、御家族様が来所された時など話をお聞きする事で御家族様の要望などがあった際は連絡ノートやカンファレンスで周知しています	家族からの意見等に対しては、申し送りノートやカンファレンスノートで共有しサービスの改善、向上に努めている。また、玄関に「意見箱」を設置している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	本部から事務局次長が来所し職員の意見や質問に答えてくれています	管理者はスタッフの意見を随時ヒヤリングできる状況にある。また、管理者は施設長(敷地内にある3事業所の長)に伝え、ケアの向上に努めることができる状況である。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡協議会ケアパートナーズに加盟しており研修のお知らせを頂いているが参加できておりません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問でご本人から要望、困っていることを聞き安心して利用していただくような体勢をとっています		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込み時、事前訪問でご家族様の困っていることや入所に際し不安なことを聞き出しお答えしています		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや洗濯たたみなどご利用者様にやりっぱなしにならないような関わりを作っています		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おたより等で施設での様子を伝え、ご家族様が来所された時はゆっくりとお話しが出来る様に支援をしています		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご利用者様のご希望があれば施設の電話を使いご家族様へ出来る限り連絡が出来る様にしております	利用者への面会の制限はない。また、利用者の要望に沿い、なじみの美容室へ出かけたりにながらこれまでの生活の継続性に努めている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士がお話ししやすい環境作りを心掛けています。共同作業をすることで良い関係が築けるようにしております		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされた方の忘れ物や請求書等でやり取りをした際、ご本人の様子を聞き何かあればいつでも相談できる事をお伝えしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりに担当職員がおり、環境整備やその方の意向に添った支援に努めています	日々の観察やコミュニケーション、生活歴等から要望やニーズの把握に努め、申し送りノートや会議等で情報共有し、その人らしさを尊重した支援に努めている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問や、入所されてからもご家族様からのお話を聞き、その方らしい生活に活かせるよう努めています		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	月に1度の職員会議の中で利用者様について話し合い、意見を出し合いサービスにつなげています	モニタリングは行われているが、計画作成担当者、本人・家族、フタッフ間で話し合った結果を個別介護計画に反映している状況ではなかった。	個別援助計画は本人や家族から聞き取りし、その意向を反映させることが望めます。本人・家族やスタッフ間での話し合いを基に作成することをご検討ください。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送り、カンファレンスノートでの情報を共有しています		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さん定期的に来ていただいています		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則家族対応での通院をお願いしています その時々で往診をしていただいています	受診が必要な利用者には家族が付き添い対応している。また、通院できない利用者に対し協力医の往診がある。定期的な訪問歯科診療はないが、必要に応じて歯科医を受診することは可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は在籍しておりません		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今回総合病院への入院をされ、その後他施設への転居をされた利用者様がいらっしゃいました。病院側とのやり取りの方法を理解しておらず反省点となりました。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様のご家族全員との面談をと考えておりましたが日々の業務に追われ時間がとれず2名のみでの面談となっています	利用者の終末期について全家族と話し合いの場を設けようと努力していることがうかがわれたが諸事情により現段階では達成できていない。	早い段階で利用者家族の意思を確認することは大切ですが、利用者の体調に変化が見られた際、家族への連絡機会を活かしながら時間をかけて今後の方向性をご検討していただきたいと思います。
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議内でプリントを用いて確認しました		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他部署と共に避難訓練を実施している	消防署員立会いのもと、年2回夜間帯を想定した避難訓練が行われている。また、BCPは現在作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した言葉掛け、親しみの中にも丁寧な言葉掛けをするようにしています	巡回時に利用者と会話する職員のようなすから、丁寧な対応であることを確認した。	排泄介助や入浴介助の際、同性介護は利用者の尊厳を守ることにつながります。重要説明事項又は契約書に記載することをご検討ください。
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居されている方の中に入浴後化粧水や乳液を使用されたり場合によって化粧をされる方がいらっしゃるので支援をさせていただいております		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に一度給食室からの支援を受けきりたんぽ会を行っております。日々の生活としてはテーブル拭きや食器拭きなど無理のない程度にやっております	利用者1人ひとりが自分のペースで食事できる環境にある。食後は下膳、テーブル拭きなど利用者のできることをしていただきながら片づけをしている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、毎日記録に残しています		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、誘導をしています。仕上げの支援の必要な方もいらっしゃいます		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今回コロナのクラスターになりレベルが下がった為、日中もオムツになった方がいらっしゃいましたが、トイレでのつかまり立ちが可能となり日中はリハビリパンツで、トイレでの排泄に戻しています	排泄状況は排泄チェック表に記録されている。また、利用者のADL状況に合わせた排泄方法と排泄用品が選択されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、豆乳やご家族様提供の野菜ジュースなどを飲んでいただいたり、おやつ等でヨーグルトを召し上がっていただいています		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	受診日の前日に入浴して頂いたり、入浴ボードに予定を立てているが、体調などに応じ別日にしたりもしております	週2回の入浴を基本としている。利用者の心身の状態を確認しながら、日課で定めた日以外にも入浴できるよう支援している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、午睡時間を取っています。日中の過ごされ方はご利用者様の気持ちに添って行っております		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後ご家族様からの情報による服薬の内容などを連絡ノートに書き周知してもらっています		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯量みや雑巾縫いなど皆さんで楽しくやっております		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援を受け、必要に応じ外出をしていただいております	行事として外出する機会を設けていないが家族の支援を受けて個別に外出している。また、日々の生活で利用者の希望があれば事業所付近を散歩するといった支援を行っている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はおりません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は利用者様の要望にお答えし調整しております。環境整備はマニュアルを設け1日3回行っております	施設内の各空間は清潔が保たれ安全を意識した環境になっている。ホール兼食堂の窓からは児童の登下校の様子眺めたり、季節感を感じることができる。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段席の離れた方でも、皆さんでやるゲームの時や就寝までの時間を席を替え、会話を楽しめるよう工夫をしています		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や、家で使っていたものなどなじみの物を居室で使って頂き安心して過ごして頂いています	ベッドやタンスは備え付けとなっているが、在宅生活の延長を意識した馴染みの品々を持ち込むことは可能である。利用者によっては家族写真を飾ったりしながら自分の空間づくりをしている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間のホールは車イスや歩行器、自立歩行時に安全に過ごせるようにテーブルの配置変えなどを行っております		